

## 三菱自然冷媒 ヒートポンプ式電気給湯機 (寒冷地向け)

時間帯別電灯通電制御型

- この製品は、「時間帯別電灯」契約専用です。

### SRT-HP372WFK

# 仕様書

## 仕様表

形名	セット	SRT-HP372WFK
	ヒートポンプユニット	SRT-HPU452K
	貯湯タンクユニット	SRT-HPT372WFK
適用電力制度		季節別時間帯別電灯、時間帯別電灯対応通電制御型
種類 (設置場所)		屋外型 (貯湯タンクユニットのみ屋内設置可)
タンク容量		0.37m <sup>3</sup> (370L)
定格電圧・周波数		単相 200V、50/60Hz
ヒートポンプユニット	定格加熱能力※2※3	4.5kW
	定格消費電力※3	1.14kW
	夏期加熱能力/消費電力※2※4	4.5kW/1.02kW
	冬期加熱能力/消費電力※2※5	4.5kW/1.25kW
	冬期高温加熱能力/消費電力※1※2※6	4.5kW/1.54kW
凍結防止ヒーター		約0.12kW (3℃ ON、7℃ OFF)
ふろ循環ポンプ		100W/130W (50Hz/60Hz)
タンク循環ポンプ		95W/110W (50Hz/60Hz)
最大電流		21A
沸き上げ温度		約75℃～約90℃
寸法	ヒートポンプユニット	高さ 640mm × 幅 820 (+80*) mm × 奥行き 300mm ※配管カバー寸法
	貯湯タンクユニット	高さ 1900mm × 幅 630mm × 奥行き 730mm
質量	ヒートポンプユニット	約60kg
	貯湯タンクユニット	約95kg (満水時約465kg)
運転音※7		39dB
最大使用圧力		190kPa (逃し弁設定値)
冷媒名 (封入量)		CO <sub>2</sub> (0.77kg)
安全装置		漏電遮断器、温度過昇防止器、缶体保護弁
リモコン (別売)	台所リモコン	RMC-HP2KDまたはRMC-HP2K (外形寸法: 縦 132mm 横 140mm 厚さ 22mm)
	浴室リモコン	RMC-HP2WBDまたはRMC-HP2WB (外形寸法: 縦 105mm 横 210mm 厚さ 25mm)

※1 低外気温時は除霜のため、加熱能力が低下することがあります。

※2 沸き上げ終了直前では加熱能力が低下する場合があります。

※3 作動条件: 外気温 (乾球温度/湿球温度) 16℃/12℃、水温 17℃、沸き上げ温度 65℃

※4 作動条件: 外気温 (乾球温度/湿球温度) 25℃/21℃、水温 24℃、沸き上げ温度 65℃

※5 作動条件: 外気温 (乾球温度/湿球温度) 7℃/4℃、水温 9℃、沸き上げ温度 65℃

※6 作動条件: 外気温 (乾球温度/湿球温度) 7℃/6℃、水温 9℃、沸き上げ温度 90℃

※7 定格条件下での測定 (JISのルームエアコンディショナに準じ測定)

※3、4、5、6、7について

●外気温: 理科年表、月別平均気温・湿度 (1961年から1990年までの平均値)

●水温: (社)ソーラーシステム振興協会「ソーラーシステムの設計基準に関する調査研究」(昭和57年9月)

●いずれも東京・大阪の季節別環境条件です。

仕様表

T0309501B

## 別売部品

部 品 名	形 名
デラックスリモコン	RMC-HP2KD(台所リモコン)+RMC-HP2WBD(浴室リモコン)
スタンダードリモコン	RMC-HP2K(台所リモコン)+RMC-HP2WB(浴室リモコン)
リモコンケーブル	LM-620(20m)、LM-650(50m)、無極性、2芯
浴槽アダプター	GT-A76(ストレート型)、GT-A79(L型)
ヒートポンプA配管用止水栓	GT-100
脚 部 カ バ ー	GT-E370A(正面設置用)、GT-E370B(横向き設置用)
ア ー ス 棒	GT-30B
防 雪 カ バ ー	GT-121
風 向 ガ イ ド	GT-130
ア ン カ ー ボ ル ト	GZ-B1(M12、30本入り)、GZ-B2(M10、50本入り)

## 設置に必要な部品(市販品)

部 品 名	仕 様 等
ヒートポンプユニット用コンクリート	許容荷重:590N(60kgf)以上、奥行き700mm以上
凍結防止ヒーター	推奨品:東京特殊電線 NFオートヒーター
ヒートポンプ電源通信線	φ2.0、VVF線(3芯・単線)
配線用PF管	電源線用・ヒートポンプ電源通信線用:φ22、リモコン線用:φ16
給水・給湯配管用不凍結水栓	止水と配管内の水抜きを行える水栓
架 台 ( 大 )	推奨品:(株)キャッチャー製 C-MW2 外形(高さ980mm×幅917mm×奥行き538mm)、質量(18kg)
架 台 ( 小 )	推奨品:(株)キャッチャー製 C-BWZ 外形(高さ941mm×幅878mm×奥行き436mm)、質量(14kg)
防雪屋根用架台 + 防雪屋根	〈防雪屋根用架台〉 推奨品:(株)キャッチャー製 PC-N38 外形(高さ895mm×幅1043mm×奥行き485mm)、質量(23.7kg)
	〈防雪屋根〉 推奨品:(株)キャッチャー製 PC-R30-2 外形(高さ900~1250mm×幅952mm×奥行き393mm)、質量(29.5kg)、 積雪耐荷重:300kg

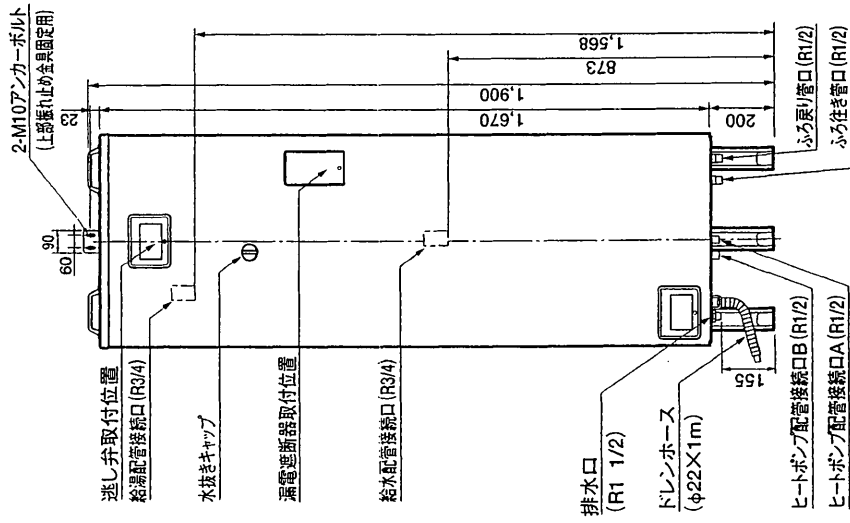
仕様表

T0309502B

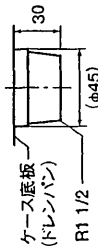
／

# 外形寸法図 (寸法単位:mm)

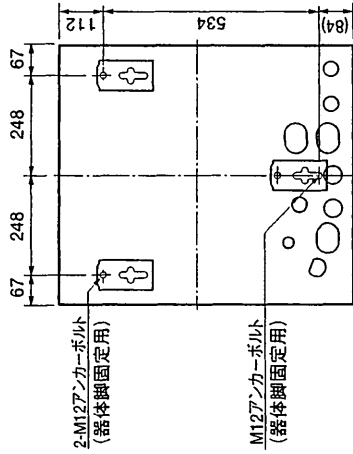
## 貯湯タンクユニット



正面図

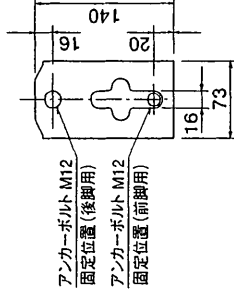


排水口寸法



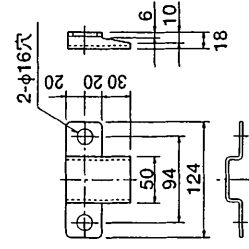
アンカーボルト位置:上面透視図

器体脚詳細図



アンカーボルト M12  
固定位置 (後脚用)  
アンカーボルト M12  
固定位置 (前脚用)

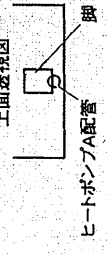
脚固定金具 (同梱部品)



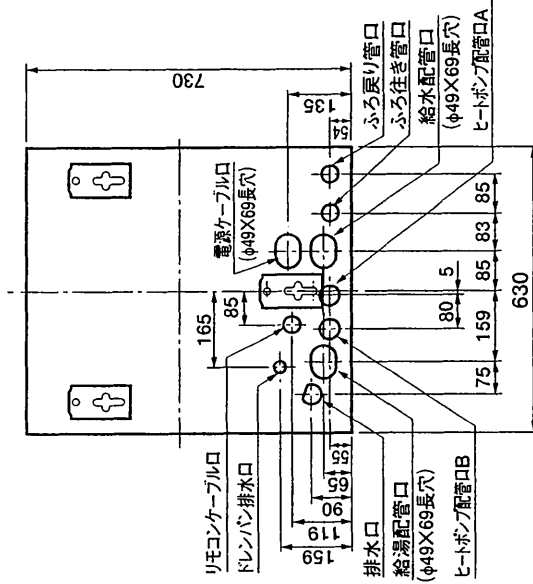
<注意>

ヒートポンプA配管は、基礎部からの垂直立ち上げはできません。(貯湯タンクユニットの脚と干渉します。) 脚に当たらないように曲げて施工してください。

貯湯タンクユニット  
上面透視図



配管位置:上面透視図

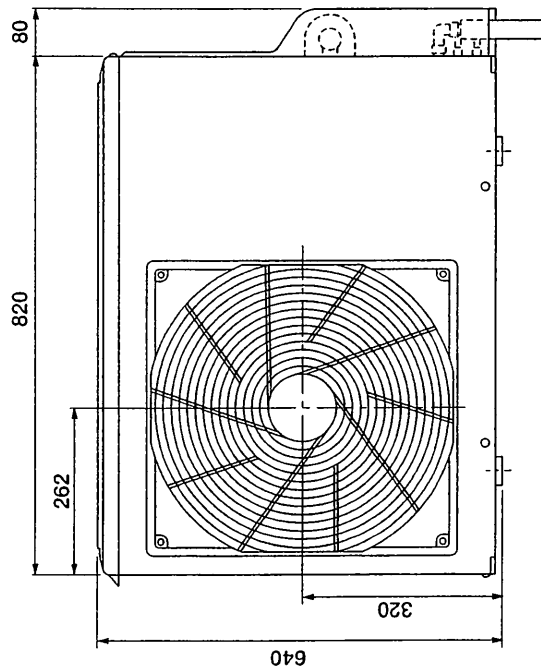
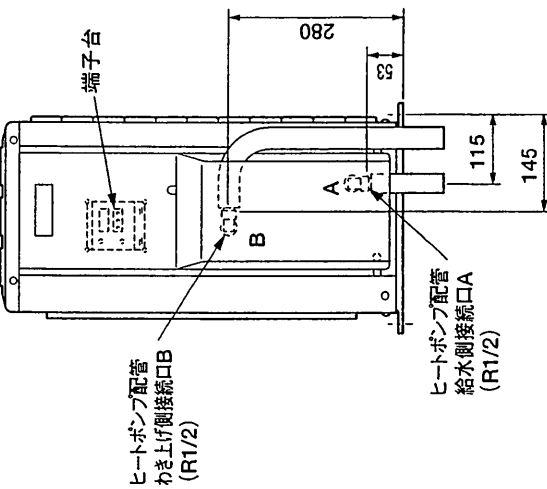
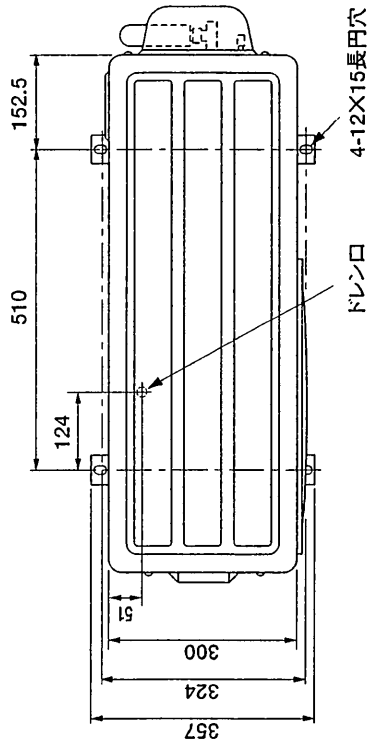


外形寸法図

T0309503B

# 外形寸法図 (寸法単位:mm)

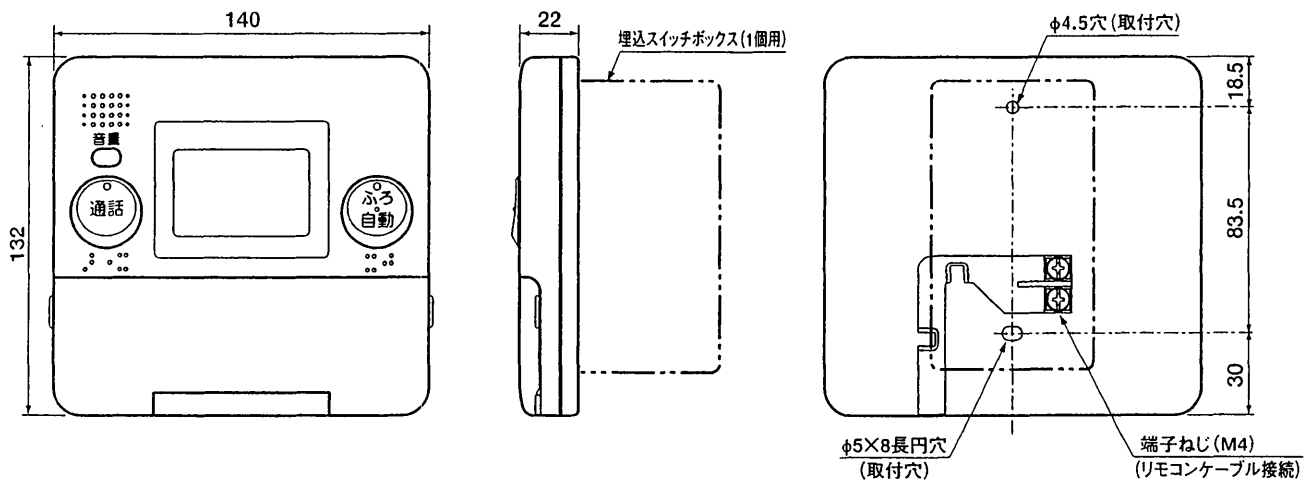
ヒートポンプユニット



外形寸法図

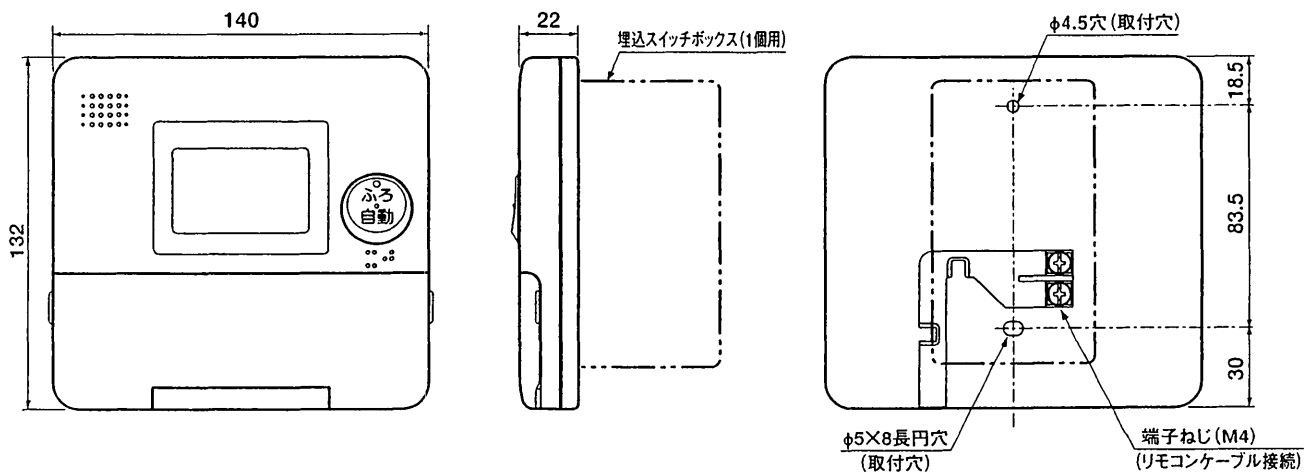
T0309504B

(寸法単位:mm)



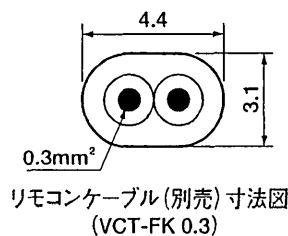
台所リモコン [デラックスタイプ] RMC-HP2KD (別売)

(寸法単位:mm)



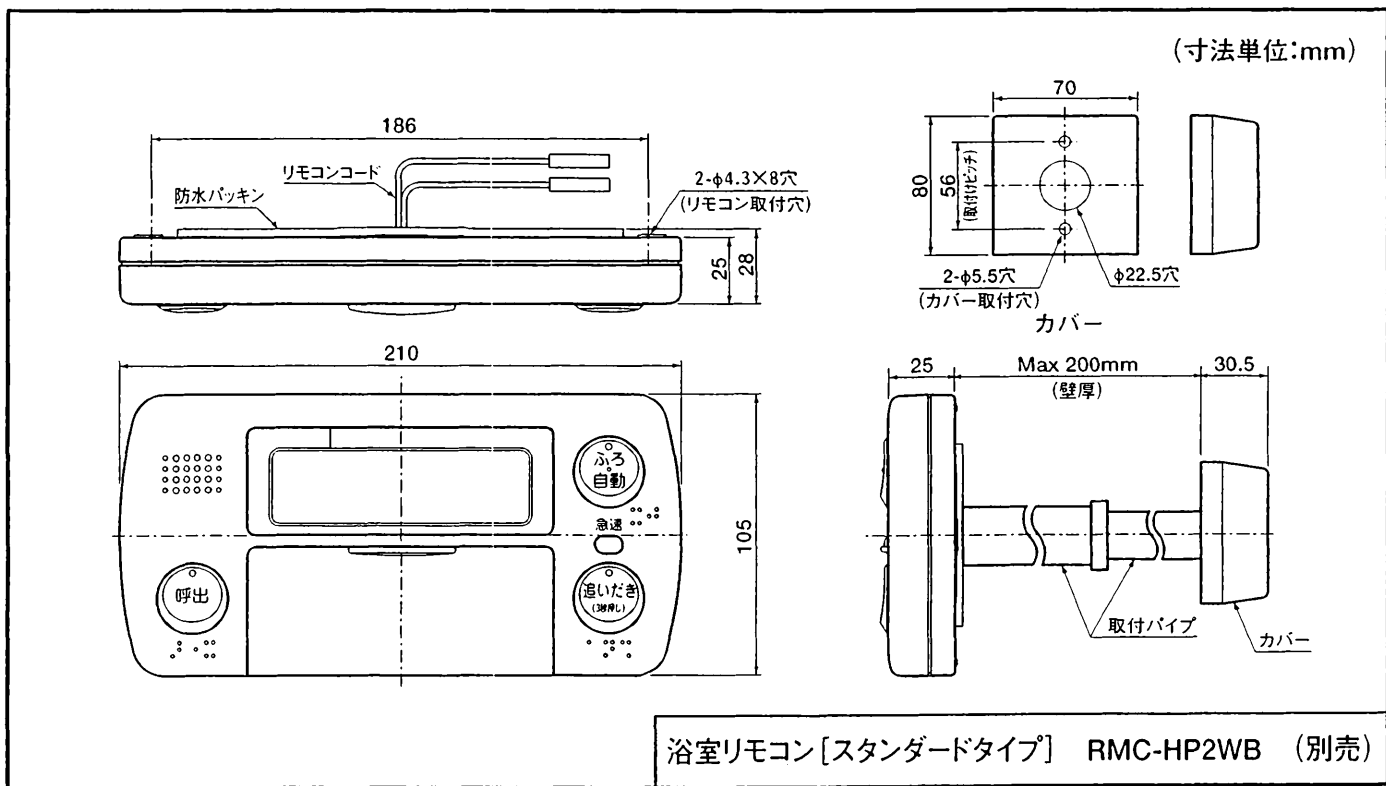
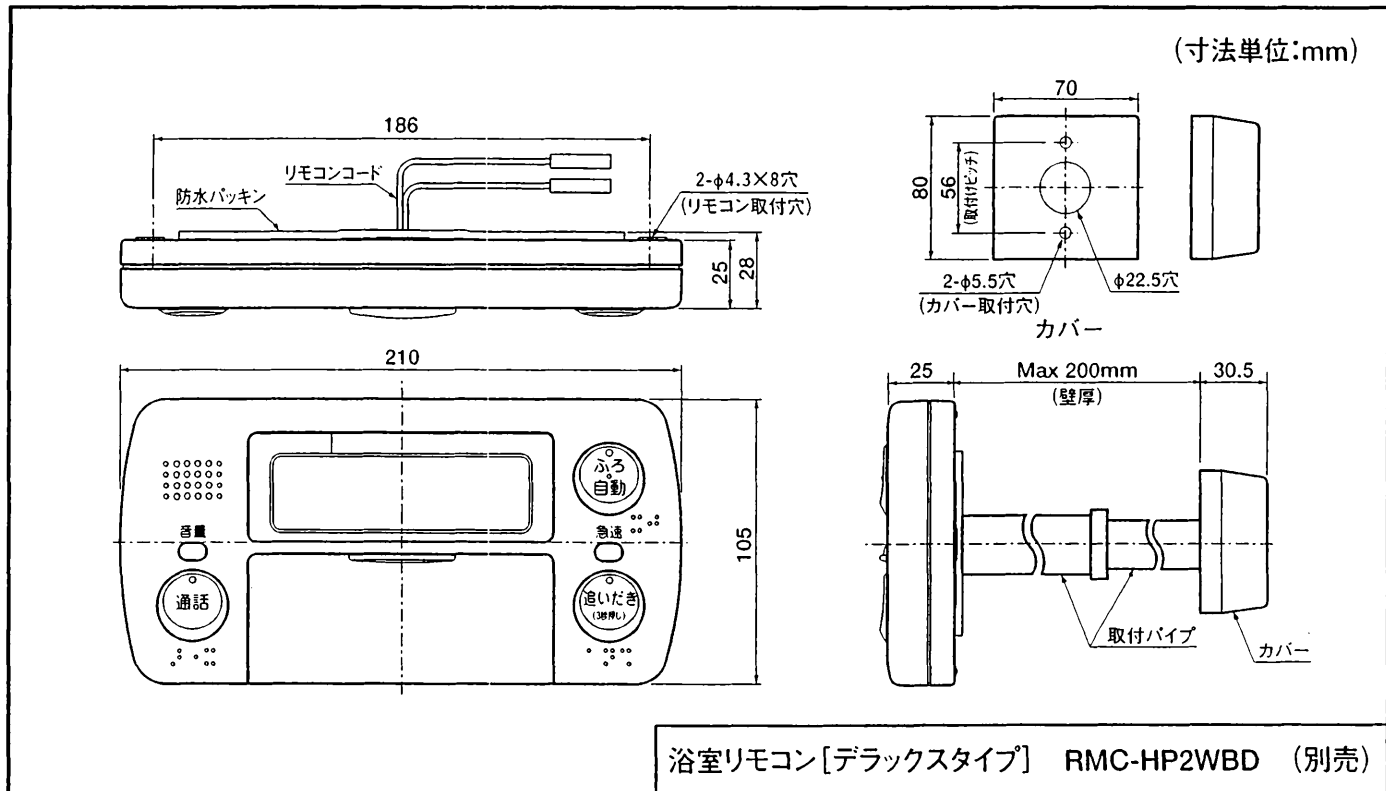
台所リモコン [スタンダードタイプ] RMC-HP2K (別売)

- RMC-HP2KD [デラックスタイプ]、RMC-HP2K [スタンダードタイプ] のいずれかを選択してご使用ください。
- このリモコンは防水タイプではありません。  
屋外や浴室などの湿気の多いところ、蒸気や水しぶきがかかる  
ところには取付けないでください。
- 下記の場所には取付けないでください。
  - ・直射日光のあたるところ
  - ・ガステーブルなどの高温 (50℃以上) になるところ
- リモコンは JIS C 8336または8435の埋込用スイッチボックス  
(1個用)、または壁に直に取付けます。
- 設置条件によって別売のリモコンケーブル LM-620 (20m)、  
LM-650 (50m) をお使いください。
- 台所リモコンとリモコンケーブルの接続はリモコンケーブルに  
Y型端子を圧着して接続します。

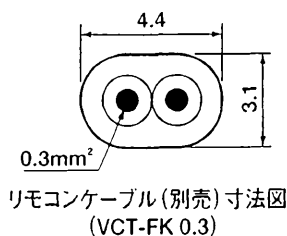


台所リモコン (別売)

T0309505B



- RMC-HP2WBD [デラックスタイプ]、RMC-HP2WB [スタンダードタイプ] のいずれかを選択してご使用ください。
- リモコンの取付けは標準の場合と壁内配線の場合で使用する部品が異なります。  
標準の場合…取付パイプ、カバー、パッキン  
壁内配線の場合…木ねじなど
- 設置条件によって別売のリモコンケーブル LM-620 (20m)、LM-650 (50m) をお使いください。
- リモコンケーブルとリモコンコードを接続端子で接続します。



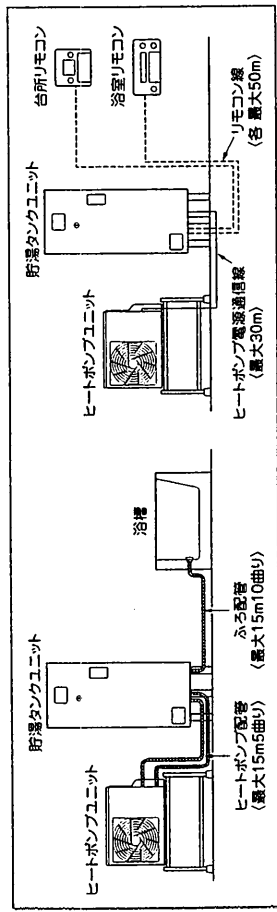
<b>浴室リモコン (別売)</b>	
<b>T0309506B</b>	/

# 据付工事-1

## 据付場所の選定

（ヒートポンプユニット、貯湯タンクユニット共通項目）

- 冬季の最低気温がマイナス20℃を下回る地域（極寒地\*）では使用できません。  
\* 旭川市、訓内市、新広市、北見市、網走市、東川町、東川町など
- 塩害地や温泉地帯など特殊な場所では機器が故障する恐れがありますので据え付けしないでください。
- 機器と建物とのすき間寸法については、各都市の火災予防条例に従ってください。
- ヒートポンプユニット、貯湯タンクユニットは機器の性能や保守点検のため「据付場所の制約」のスペースを確保してください。
- 配管に関する「据付場所の制約」を守ってください。
- 配管による放熱ロスを少なくするため、できるだけ給湯場所に近い所に据え付けてください。
- 屋根や雪が降ったとき、水たまりができて水につかるような所には絶対据え付けしないでください。
- 以下の配管・電線は、長さに制約がありますので、最短となるように施工してください。



## （ヒートポンプユニット）

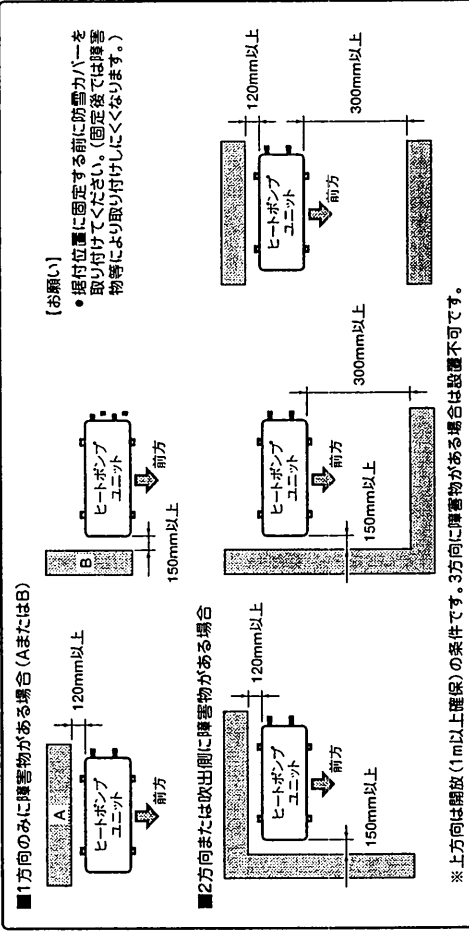
- ヒートポンプユニットは屋内に据え付けしないでください。
- ヒートポンプユニットは通気性の良い場所に据え付けてください。
- ヒートポンプユニットは置き上げ中および凍結防止運転中に運転中に運転音、振動が発生します。据付場所の状態、運転音は大きくなります。また、置き上げ中は冷風がでますので、壁面、近くや近所の迷惑になる場所への据え付けは避けてください。また、各都市の騒音規制等に関する条例に従って設置してください。
- ヒートポンプユニットは強風に当たらない場所を選定してください。（風が当たると除霜時間が長くなります。）
- 積雪地区へ据え付ける場合は、ヒートポンプユニットは屋根の上に据え付けるなど、降雪・除雪による雪が空気を吸込口・吹出口に入らないよう、防雪カバー（当社純正別売部品）を据付位置に固定する前に取り付けてください。また、防雪屋根を設置して雪が積もらないようにしてください。
- ヒートポンプユニットはテレビ・ラジオのアンテナより3m以上離してください。（テレビ・ラジオに映像のあたれや雑音が生ずることがあります。）
- わき上げ時、結露した水がヒートポンプユニットのドレン口から排水されますので、排水ができる場所に据え付けてください。（排水が通路等で再凍結して危険とならないように、排水方法を配慮してください。）
- ヒートポンプユニットから前方に前方に出る風が気になる場合は、風向ガイド（当社純正別売部品）を取り付けてください。

## （貯湯タンクユニット）

- 冬季の最低気温がマイナス15℃を下回る地域は、貯湯タンクユニットを屋内に設置してください。
- 貯湯タンクユニットを屋内に据え付ける場合は、屋外に据え付ける場合の注意に加え、特に下記を厳守してください。
  - 通気口を設け、密閉室にしないでください。
  - 床面の防水、排水工事を確実に行ってください。
  - 浴室など湿気の多い所には据え付けしないでください。
- 積雪地域で貯湯タンクユニットを屋外に据え付ける場合は、小屋がけをして雪がかかるのを防いでください。
- 貯湯タンクユニット設置階の上の階に給湯するとき、貯湯タンクユニット設置階の給湯回路に流量絞り弁を取り付けて、階高さの違いによる流量バランスの調節をしてください。

## 据付場所の制約

ヒートポンプユニット単体の据付制約（上から見た図）

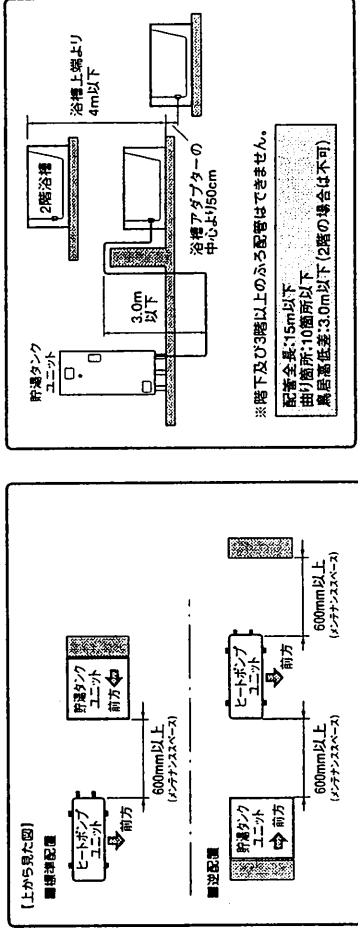


■1方向のみに障害物がある場合（AまたはB）

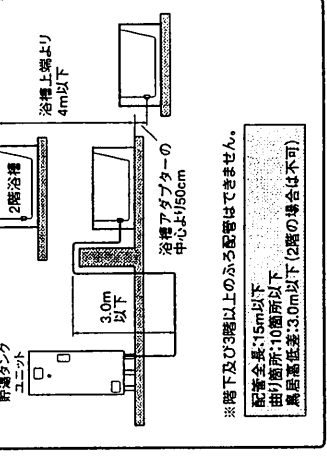
■2方向または吹出側に障害物がある場合

※上方は開放（1m以上確保）の条件です。3方向に障害物がある場合は設置不可です。

## ヒートポンプユニットと貯湯タンクユニット間の据付制約



## 貯湯タンクユニットと浴槽間の据付制約（横から見た図）



## 警告

- ヒートポンプユニットは屋内に設置しない。万一冷媒が漏れると、健康不足の原因になります。
- ガス類や引火物の近くには据え付けない。発火・火災になることがあります。

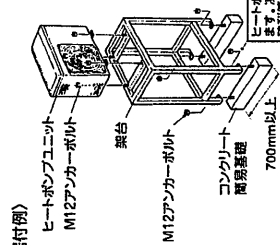
## 据付工事-1

T0309507B

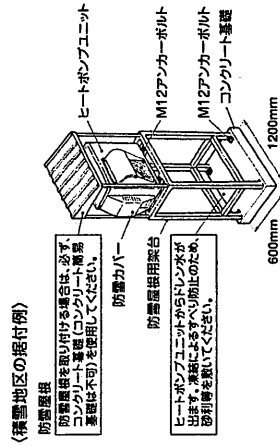
# 据付工事-2

## ヒートポンプユニットの据付

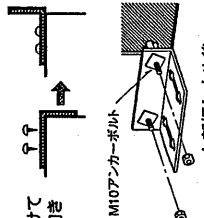
- コンクリート簡易基礎(市販品)またはコンクリート基礎(右図)を使用して屋外、床下等に水平に据え付けてください。  
(水平に据え付けられないと、運転音や振動が大きくなったり、機器破損の原因となります。水平かどうかは、水準器等で確認してください。)
- 架台の上に設置し、雪入り対策をしてください。
- ヒートポンプユニットの脚は必ず架台に固定してください。
- 雪地域では、防雪カバー(当社純正別売部品)、防雪屋根(推奨品)を取り付けてください。
- 防雪屋根を取り付ける場合は、必ず、コンクリート基礎(コンクリート簡易基礎は不可)を使用してください。



品名	仕様
架台(大)	推奨品: (株)キヤッチャー製 C-MW2 外形(高さ)980mm×幅917mm×奥行530mm、質量19kg
架台(小)	推奨品: (株)キヤッチャー製 C-BW2 外形(高さ)841mm×幅876mm×奥行408mm、質量14kg
コンクリート簡易基礎	許容荷重500N(50kgf)以上 奥行が700mm以上



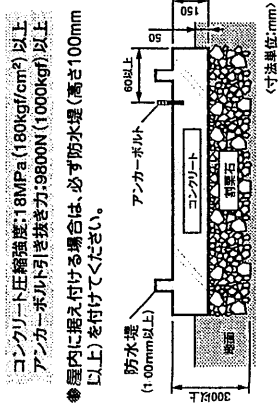
品名	仕様
防雪屋根用架台	推奨品: (株)キヤッチャー製 PC-N38 外形(高さ)895mm×幅1043mm×奥行65mm、質量23.7kg
防雪屋根	推奨品: (株)キヤッチャー製 PC-F30.2 外形(高さ)900×幅1600mm×奥行399mm、質量28.5kg、積雪耐重300kg
防雪カバー	別売部品 GT-121



- 【お願い】**
- 引張荷重が4900N(500kgf)以上に耐える壁、または壁を設けてください。
  - アンカーボルトは引き抜き力が2450N(250kgf)以上になる施工をしてください。
  - アンカーボルトの穴は下表を参照してください。
- | 壁の種類   | 径  | 深さ | 埋込み長さ | 埋込深さ | 埋込長さ |
|--------|----|----|-------|------|------|
| コンクリート | 10 | 60 | 25    | 10.5 | 35   |
- ※埋込深さは、埋込長さ×埋込率(埋込率)で算出してください。

## 貯湯タンクユニットの据付

- 原則として、屋外に据え付けてください。
  - 基礎は△形(菱形)にならないように、対角寸法を確認してください。
  - アンカーボルトの穴は下表を参照してください。
- | 径    | 深さ  | 埋込み長さ | 埋込率  |
|------|-----|-------|------|
| 12   | 100 | 30    | 12.7 |
| 12.7 | 100 | 30    | 12.7 |
- ※埋込率は、埋込長さ×埋込率(埋込率)で算出してください。



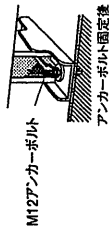
- 【お願い】**
- 原則として、屋外に据え付けてください。
  - 基礎は△形(菱形)にならないように、対角寸法を確認してください。
  - アンカーボルトの穴は下表を参照してください。
- | 径    | 深さ  | 埋込み長さ | 埋込率  |
|------|-----|-------|------|
| 12   | 100 | 30    | 12.7 |
| 12.7 | 100 | 30    | 12.7 |
- ※埋込率は、埋込長さ×埋込率(埋込率)で算出してください。

## 脚部カバー(別売)取付工事

- 脚部カバーを取付ける場合、貯湯タンクユニット本体を据え付ける前に脚部カバーの支持板を本体に取り付けてください。詳しくは脚部カバーの説明書をご覧ください。

## 脚部固定工事

- 地震時の転倒防止のため、アンカーボルトを使用して基礎の上に固定します。3箇所必ず固定してください。
- 必ず水平に据え付けてください。



- 【注意】**
- 貯湯タンクユニットの脚部をアンカーボルトで固定する(けがの原因)

## 上部振れ止め工事

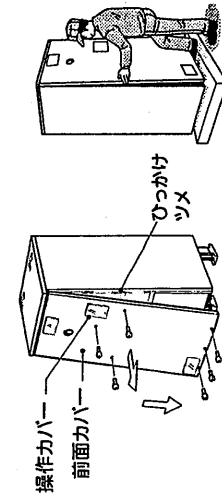
- 貯湯タンクユニットの上面に取付けてある上部振れ止め金具を外し上向きに取り付けます。
- 上部振れ止め金具を壁に固定します。

- 【注意】**
- 2階以上に据付ける場合は、上部振れ止め金具で本体を固定する(けがの原因)

## 貯湯タンクユニット前部カバーの外し方

- 前部カバーのねじ(6本)を外したあと、前部カバーを上げなが手前へ引いて降ろします。(前部カバーの取外し、取付けは右図のように行なってください。)

- 【お願い】**
- 外した前部カバーは傷が付かないよう、風が当たらない安定した場所に正面を上にして横置きしてください。また、操作カバーのつまみが壊れないようご注意ください。
  - 工事が終わったら、前部カバーは元どおりし(6本)で確実にしめてください。



## 据付工事-2

T0309508B



# 配管工事-1

- 上水道を使用する場合は当該水道事業者の案内に基づき配管水道工事業者が施工してください。  
 ● 本機は水道法の飲料水水质基準に適合した水道水を使用してください。井戸水は使用しないでください。  
 ● 給水圧力は200kPa以上で使用してください。  
 ● 水栓は止水栓付排水混合栓を使用してください。出湯量が少ない場合は、特にシャワーはやけど防止のため、サーモスタット付排水混合栓を使用してください。(サーモスタット付排水混合栓は使用しない場合があります。ご使用になる場合は、最低必要圧力、シャワーヘッドなどの仕様を確認して選定してください。手元ストップシャワー、マッサージシャワー等のシャワーヘッドでは出湯量が少なくなります。)
- 排水口の下には必ず排水ホッパーを設けてください。  
 ● 排水配管には必ず排水トラップを設置してください。排水トラップがないと下水ガスが逆流して結露機が著しく腐食し、故障します。  
 ● 本機は排水機器との接続はできません。
- 【お留心】** ● 配管材料をろう付けした場合は、ろう付け箇所付近に設置したトラップを濡れた布で覆って取り除いてください。  
 ● 配管材料は、管の膨張収縮が繰り返されるので、コネクタやジョイントを貫通するときは管を固定しないでください。  
 ● シールド部は耐熱・耐食性の材料を使用してください。  
 ● 配管材料は、配管の途中、加工工程で必ず中性洗剤で洗浄し、から乾かして使用してください。  
 ● 配管材料は、配管の途中、加工工程で必ず中性洗剤で洗浄し、から乾かして使用してください。  
 ● 配管材料は、配管の途中、加工工程で必ず中性洗剤で洗浄し、から乾かして使用してください。

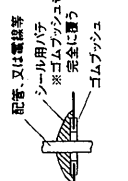
## 注意

- 水道水を使用する(故障や水漏れの原因)

## ヒートポンプ配管・貯湯タンク配管・ふる配管工事

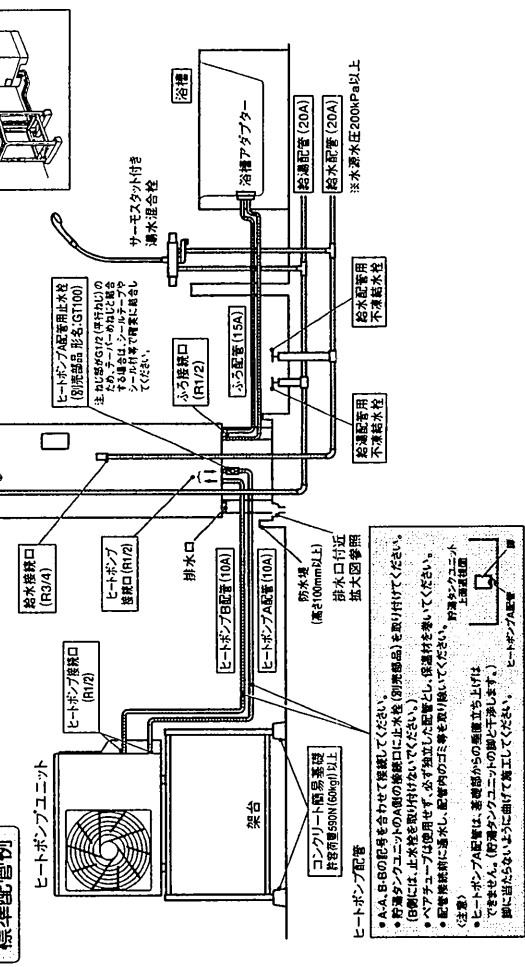
場所	使用配管材	配管サイズ	施工上の注意
ヒートポンプ配管	100℃以上の耐熱性・耐食性を有するもの(銅管など)	10A (3/8B) φ12.7	● 配管径は必ずφ12.7のサイズを使用してください。 ● ヒートポンプユニットと貯湯タンクユニットのA-A、B-Bを接続してください。 ● (B側)には、止水栓を取り付けなければなりません。 ● 配管長は片道15m、5曲りまでです。 ● なるべく配管長が短くなるように、屋外の配管が短くなるように施工してください。(配管からの放熱により、上がり温度が設定温度より低くなるためです。耐熱保温材20mm、外気温度が7℃、15mの配管の場合、配管での放熱ロスによる温度低下は5℃程度です。外気温度、湿度等の条件、各部の放熱ロスをめると、タンクに貯まるお湯の温度は、設定温度よりも10℃程度 低下することがあります。)
給水配管	耐食性を有するもの(銅管など)	20A (3/4B) φ22.22	● ペンチチューブを使用不可です。A側・B側それぞれ独立した配管とし、放熱を防ぐ保温材を巻いてください。(耐熱保温材 厚み20mm以上)
給湯配管	90℃以上の耐熱性・耐食性を有するもの(銅管など)	20A (3/4B) φ22.22	● 貯湯タンクユニットの給湯接続口から銅管等で接続してください。 ● 急激な温度変化や排水するときに必要な、給湯配管用不凍結水栓を取り付けてください。必ずお書きが操作しやすい場所に取り付けてください。
ふる配管	80℃以上の耐熱性・耐食性を有するもの(銅管など)ただし、ゴムホースのようなたよからかい配管は使用不可(※2)	15A (1/2B) φ15.88	● 貯湯タンクユニットの給湯接続口から銅管等で接続してください。 ● 貯湯タンクユニット天面から5.5m以内です。 ● 急激な温度変化や排水するときに必要な、給湯配管用不凍結水栓を取り付けてください。必ずお書きが操作しやすい場所に取り付けてください。
排水配管	90℃以上の耐熱性・耐食性を有するもの(HT管など)	φ50 以上	● 配管長は15m、10曲りまでです。(耐熱樹脂管(呼び径13相当)を使用する場合は6m、5曲りまで) ● 壁下へのふる配管はできません。 ● 設置面から浴槽上面までは、4m以下にしてください。 ● 浴槽配管は1箇所3m以下にしてください。 ● 浴槽アタプターは指定のものを使用してください。 ● フル配管の使用量は1m以下にしてください。 ● 配管は必ず放熱を防ぐ保温材を巻いてください。(耐熱保温材 厚み20mm以上) ● また、在り配管を交換するよう施工しないといけない。熱交換により誤動作することがあります。(例: 全層型ヘアチューブの使用、2つの銅配管をまとめて耐熱材で覆うなど) ● 配管のつなぐは折れのないように施工してください。 ● 口径φ40以上の排水ホッパーや排水トラップおよびφ50以上の排水管を使用してください。 ● 巻き上げ中に貯湯タンクユニットの排水口やヒートポンプユニットのドレンホースより少量のお湯が出ますので、必ず排水工事を行ってください。 ● 排水管が40L程度排水されますので、十分排水できる排水工事をしてください。

※1: 配管サイズは、「JWWVA H101規格」の範囲です。 ※2: 水位の検出ができていないことがあるためです。  
 ● 貯湯タンクユニット設置箇所の下の階へ給湯するときには、貯湯タンクユニット設置箇所に排水取り井を取り付け、階下による逆流・バランを調整してください。  
 ● ヒートポンプの使用容量はできるだけ短くしてください。(1m以内)  
 ● ヒートポンプ配管にフレキシブルを使用する場合は、耐熱性・耐食性・アンチバーストタイプを使用してください。  
 ● 貯湯タンクユニット底面の各配管口のゴムパッキン(白)は外さないでください。本体と配管のすきまは、同梱のパッキンで埋めてください。万一、タンク等から漏水した場合は、大きな修理につながるおそれがあります。シールド方法については、15字に付属の工事説明書をお読みください。

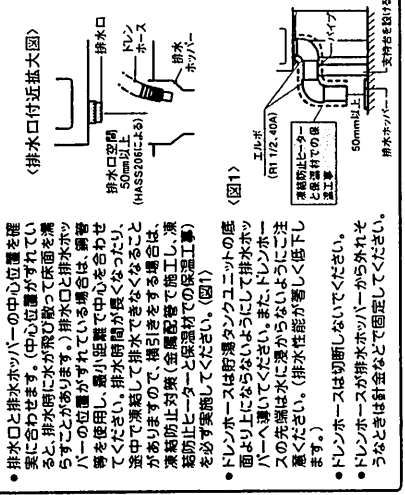


## 配管例

### 標準配管例



## 排水口付近拡大図



## 施工時の注意事項

- 貯湯タンクユニット及びヒートポンプユニットの排水配管には必ず排水トラップを設けてください。排水トラップがないと浄化槽などから下水ガスが逆流し、製品が著しく腐食し、故障します。
  - 腐食が発生しない正しい施工例
  - × 腐食が発生する誤った施工例

## 配管工事-1

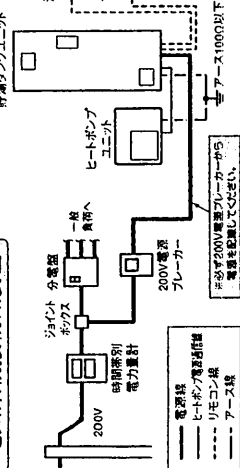
T0309509B



# 電気工事

電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき、指定工事業者が行ってください。  
 プレーカーの定格および電線の寸法は内線規程に定められたものを使用できません。  
 電力契約は必ず「時間帯別電灯」としてください。深夜電力契約はできません。  
 必ずタンクを漏水したことと止水栓が開いていることを確認してから電源を入れてください。  
 保護アース(接地)工事は万一の感電事故防止のため、電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき、電気工事士によるD種(第3種)接地工事(接地抵抗値100Ω以下)を行ってください。

## 電気系統接続概要図



## 貯湯タンクユニットへの配線工事

- 電源線(電源~貯湯タンクユニット)をPF管(φ22)に通します。
- ヒートポンプ電源通信線(貯湯タンクユニット~ヒートポンプユニット)をPF管(φ16)に通します。(配線は、最長30mまでです。)
- 各リモコンから貯湯タンクユニットまでのリモコン線(2本)、PF管(φ16)に通します。
- 電源線(電源~貯湯タンクユニット)を電源ケーブルル口から通し、200Vターミナルに接続します。  
電源線 締付基準トルク: 2.2~3.6N・m (33~47kgf・cm)
- ターミナルへの接続は付属の圧着端子を使用してください。  
電源線にVVF(亜形)を使用する場合は、VVF専用のクランプを現地調達して、交換してください。
- ヒートポンプ電源通信線(貯湯タンクユニット~ヒートポンプユニット)を電源ケーブルル口から通し、ヒートポンプ用電源通信ターミナルに接続します。  
必ず準拠を使用する。  
圧着端子を使用する場合は、(黒・黒、白・赤)の差込みを必ず行ってください。
- 電源線、ヒートポンプ電源通信線をケーブル押え板で固定します。  
必ず準拠を使用してください。
- 端子部に直接外力が加わらないように確実に固定してください。  
リモコン線2本(台所、浴室リモコン)をリモコンケーブルル口から通し、リモコン接続端子に接続します。  
引張強度: 35.6N以上(圧着後に確認してください。)

〈参考〉接続端子用圧着工具  
 ● 日本圧着端子製造株式会社製 YNT-2216

## 警告

- 電源線は確実に取付ける
- 丸端子の圧着は右図のように確実に固定してください。
  - 丸端子の圧着は右図のように確実に固定してください。
  - 丸端子の締付基準トルクは、3.2~3.6N・mとする
  - ヒートポンプ電源通信線は、必ず準拠を使い、電源通信ターミナルに確実に取付ける
  - 電源線、ヒートポンプ電源通信線は、必ず準拠を使い、電源通信ターミナルに確実に取付ける
  - 貯湯タンクユニット内の凍結防止ヒーターと配線は50mm以上の距離を確保する
- (火災、感電の原因)

## 必要部材

名称	仕様	備考
電源プレーカー	単相200V・30A	
電源線	5.5mm <sup>2</sup> (φ2.0)・VV線	2芯式、電源~貯湯タンクユニット
ヒートポンプ電源通信線	φ2.0・VVF線	2芯式、電源~貯湯タンクユニット
リモコン線	0.3mm <sup>2</sup> 以上	2芯式、リモコン~貯湯タンクユニット
PF管	φ22	電源線用(電源~貯湯タンクユニット)、ヒートポンプ電源通信線用(貯湯タンクユニット~ヒートポンプユニット)
PF管	φ16	リモコン線用(貯湯タンクユニット~リモコン)
アース線	φ1.5・VV線	

## ヒートポンプユニットへの配線工事

- 貯湯タンクユニットからヒートポンプユニットまでのヒートポンプ電源通信線をPF管(φ22)に通します。
- 配管カバー、端子台カバーを取り外し、ヒートポンプ電源通信線をユニット内へ通します。
- クランプでPF管(ヒートポンプ電源通信線)を固定します。  
端子部に直接外力が加わらないように確実に固定してください。  
配線の際にPF管が短縮剤(樹脂)配管に接しないように固定してください。また、水抜きの際に、PF管内に水が入り込まないように、PF管端部の位置が短縮剤(樹脂)配管の接続口より上になるように固定してください。
- ヒートポンプ電源通信線をヒートポンプユニットのヒートポンプ用電源通信ターミナルへ接続します。  
必ず準拠を使用する

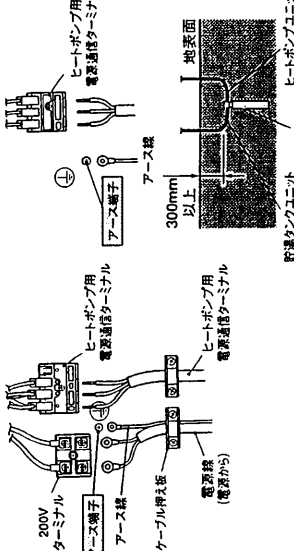
- 【お願い】
- 断性がありますので必ず合わせてください。(黒・黒、白・赤)
  - 圧着方法は、右図に示して行い、必ずターミナルの差し込み部が見えるまで確実に差し込んでください。その際、電源を必ず必ず引っぱり、預けないことを確認してください。
  - 圧着終了後、端子台カバーを取り付けるときに、ヒートポンプ電源通信線の外側の被覆が端子台カバーの中に入っていないことを確認してください。

## アース工事

- 万一の感電事故防止のため、電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき、D種接地工事(接地抵抗100Ω以下)を行ってください。
- 水道管、ガス管への接地、および他の機器の接地との共用はできません。
- 避雷針の接地と2m以上離してください。

## 貯湯タンクユニット

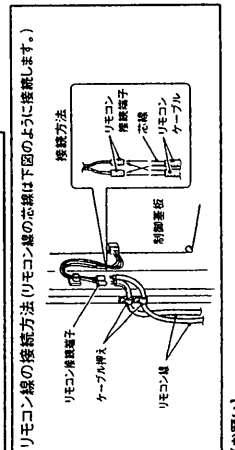
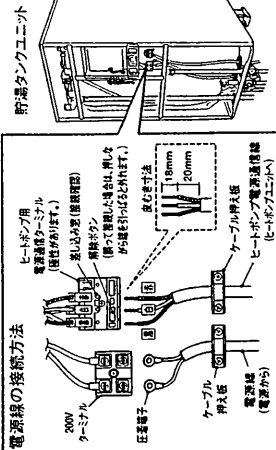
- 締付基準トルク: 0.7~1.3N・m (7~13kgf・cm)
- 【お願い】
- 丸端子(市販品)を圧着して接続してください。



## ヒートポンプユニット

- 締付基準トルク: 0.7~1.3N・m (7~13kgf・cm)
- 【お願い】
- 丸端子(市販品)を圧着して接続してください。

- リモコン線との中間は動作の原因になりまので行わないでください。
- リモコン線は電源線と密着して(約5cm)配線してください。
  - 近いサイズによる密着動作の原因になります。
  - リモコン線は、引け強さも端子に直接伝わりかねないようケーブル押え板で確実に固定してください。
  - 電源線とリモコン線を同時に圧着する場合は、必ず準拠を使用してください。
  - リモコン線は、圧着後に確認してください。
  - リモコン線は、本体内部の接続の内層を通してください。



## 警告

- 電源線は確実に取付ける
- 丸端子の圧着は右図のように確実に固定してください。
  - 丸端子の圧着は右図のように確実に固定してください。
  - 丸端子の締付基準トルクは、3.2~3.6N・mとする
  - ヒートポンプ電源通信線は、必ず準拠を使い、電源通信ターミナルに確実に取付ける
  - 電源線、ヒートポンプ電源通信線は、必ず準拠を使い、電源通信ターミナルに確実に取付ける
  - 貯湯タンクユニット内の凍結防止ヒーターと配線は50mm以上の距離を確保する
- (火災、感電の原因)

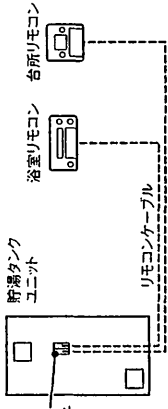
## 電気工事

T0309511B

# リモコン工事

- リモコンは、三菱純正別売部品をご使用ください。別売リモコン以外では、わき上げできません。
- リモコンケーブルは、三菱純正別売部品を設置条件に合わせて切断してご使用ください。  
[リモコンケーブル形名LM-620またはLM-650(2芯、線径:0.3mm<sup>2</sup>)]
- 本体1台に複数の浴室リモコン及び複数の台所リモコンは接続できません。

## リモコン接続概要図



## 台所リモコン取付工事

### 付属品

部品名	数量	部品名	数量
木ねじ	2	Mねじ	2
オールブラダ	2	Y型端子	2
操作説明ラベル	1	工事説明書	1

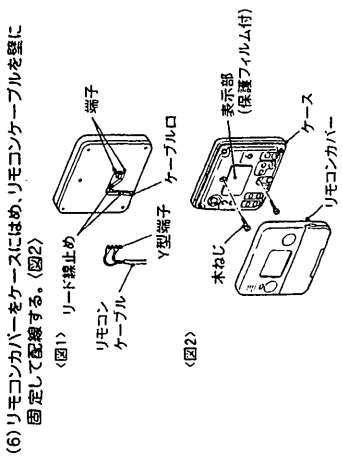
- 【お願い】
- リモコン本体を分解しないでください。
  - 操作説明ラベルを台所リモコンの近傍に貼り付けてください。
  - リモコンを直接のりや鉄くずのある所に貼らないでください。スベーカー部(左上)に鉄粉が付着し、音が出なくなります。

### 取付場所の選定

- 台所リモコンは必ず屋内に取付けてください。
- 取付位置はスイッチ操作が容易にでき、表示が良く見えるところを選んでください。
- 台所リモコンは防水タイプではありません。下記の場所には取付けないでください。
  - カステールなど高温(50℃以上)になる場所
  - 浴室など湿気の多いところ
  - 直射日光のあるところ
  - 湯気や水しぶきや油のかかる場所
  - 幼児の手が届くところ
- リモコンケーブルの長さが50cm以内になる場所としてください。

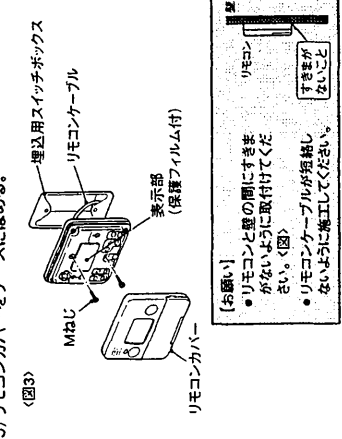
## 壁面に取付ける場合(露出配線)

- (1) 下ケースの「ケーブルロ」をニッパーなどで切欠く。(図1)
- (2) リモコンケーブルを付属のY型端子に装着して端子に接続し、リモコンケーブルをリット線止めにする。(図1)
- (3) Y型端子をリモコンケーブルが短絡しないように施工してください。  
【お願い】リモコンケーブルが短絡しないように施工してください。
- (4) マイナストライバードでリモコンケーブルをケーブルからはずす。(図2)
- (5) リモコンケーブルを木ねじ2本で壁に固定する。(図2)
- (6) リモコンケーブルをケーブルからはずし、リモコンケーブルを壁に固定して配線する。(図2)



## リモコンケーブルを壁に通す場合(埋込配線)

- リモコン取付位置に埋込用スイッチボックス(1個用)を取付けておきます。
  - リモコンケーブルを電線管に通し、貯湯タンクユニットまで配線しておきます。
- (1) 埋込用スイッチボックスから出ているリモコンケーブルの付属のY型端子に装着して、端子に接続する。(図1)
  - (2) マイナストライバードでリモコンケーブルをケーブルからはずす。(図3)
  - (3) リモコンケーブルをMねじ2本で埋込用スイッチボックスに固定する。(図3)
  - (4) お客さまとご相談の上、必要に応じ表示部の保護フィルムをはずす。
  - (5) リモコンケーブルをケーブルからはずす。



## 浴室リモコン取付工事

### 付属品

部品名	数量	部品名	数量
木ねじ	4	パッキン*	1
オールブラダ	2	取付パイプ(太)	1
カバー(パッキン付)	1	取付パイプ(細)	1
操作説明ラベル	1	工事説明書	1

- ※パッキンはリモコンに付いていますが、仮取付けできるより両面テープになっています。
- 【お願い】
- リモコン本体を分解しないでください。
  - 操作説明ラベルを浴室リモコンの近傍に貼付けてください。
  - リモコンを直接のりや鉄くずのある所に貼らないでください。スベーカー部(左上)に鉄粉が付着し、音が出なくなります。

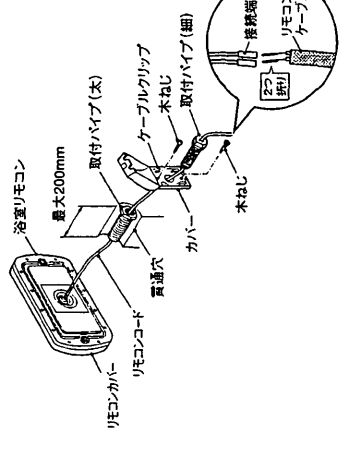
## コンクリート、タイルなどの壁に取付ける場合(壁貫通)

- 壁厚200mmまで取付け可能です。
- 壁に貫通穴(φ26~30mm)、オールブラダを打ち込みます。約30mm、2か所をあけ、オールブラダを打ち込みます。



- (1) マイナストライバードなどで、リモコンケーブルをケーブルからはずす。
- (2) 取付パイプ(太)を壁の厚みに合わせてカットし、リモコンケーブルを通してリモコンにねじ込む。
- (3) 木ねじでリモコンを壁に固定して、リモコンケーブルをカバー、取付パイプ(細)に通して、取付パイプ(細)をねじ込み、カバーを木ねじ2本で止める。
- (4) リモコンケーブルの芯線を2つ折りにして、リモコンケーブルに装着する。  
【お願い】リモコンと壁の間にすまみがないように取付けてください。

- 【お願い】
- 日本任意端子製造株式会社製 YHT-2216 (参考)接続端子用電動式圧着工具
  - リモコンケーブルが短絡しないように施工してください。
  - 接続部がカバーの内側になるようにケーブルリップにリモコンケーブルを巻いてカバーのふたをずらす。
  - お客さまとご相談の上、必要に応じ表示部の保護フィルムをはずす。
  - (7) リモコンケーブルを取付ける。

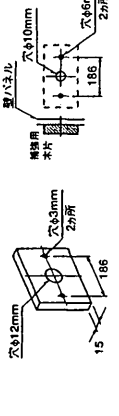


### 取付場所の選定

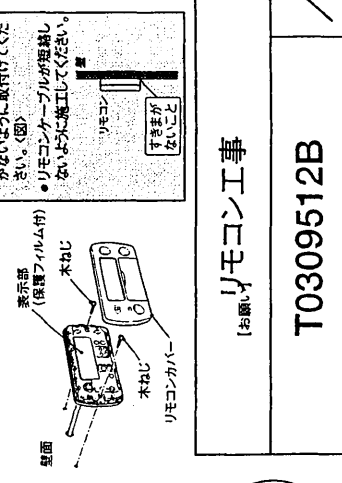
- 取付位置は浴室内のスイッチ操作が容易にでき、表示が良く見えるところを選んでください。
- 浴室リモコンは防水タイプですが、できるだけ湯や水がかりにくい場所に取付けてください。
- リモコンケーブルの長さが50cm以内になる場所としてください。
- カバーは湿気の少ない場所に取付けてください。

## ユニットバスに取付ける場合(壁内配線)

- 取付パイプ、カバー、オールブラダは使用しません。
- 室内側からリモコンケーブルを通しておきます。
- 壁にリモコンケーブル用穴(φ10mm)と、リモコン取付用穴(φ6mm)をあけます。
- 壁パネルに取付ける場合、裏側に補強用の木片を取付けます。(木片にリモコンケーブル用穴(φ12mm)とリモコン取付用穴(φ3mm、2か所)をあけます。)
- 補強用の木片を接着剤などで壁裏面に付けます。
- 木片は現地で用意してください。



- (1) マイナストライバードなどで、リモコンケーブルをケーブルからはずす。
- (2) リモコンケーブルの芯線を2つ折りにして、リモコンケーブルの端子に装着し、必ず、木ねじ2本でリモコンを固定する。  
【お願い】リモコンと壁の間にすまみがないように取付けてください。
- (3) お客さまとご相談の上、必要に応じ表示部の保護フィルムをはずす。
- (4) リモコンケーブルを取付ける。



リモコン工事

T0309512B